

# 雲仙岳火山活動状況 (1996年2月～5月)\*

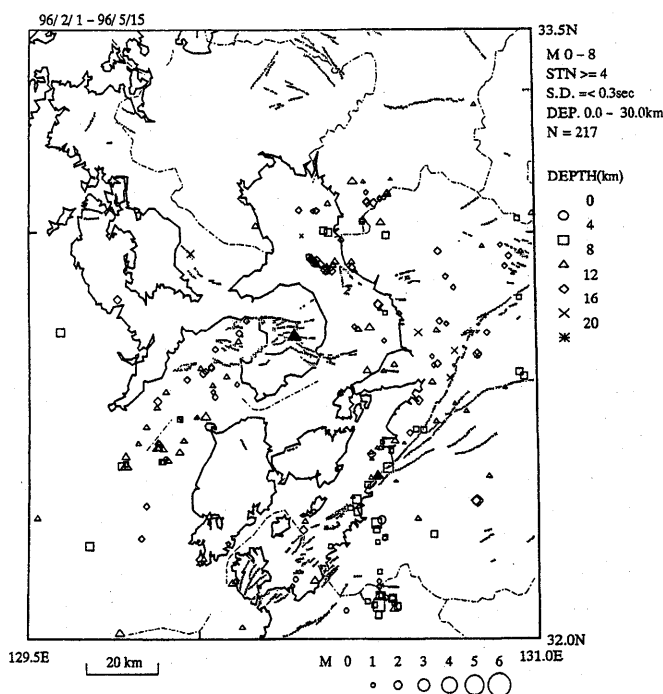
Volcanic Activity of Unzen Volcano (February—May 1996)

九州大学理学部  
附属島原地震火山観測所  
Kyushu Univ.

第1図に、雲仙火山を含む九州中西部の1996年2月1日～5月15日の震源分布を示す。有明海、天草灘、八代海東岸でややまとまった地震活動が見られるが、雲仙岳噴火活動の開始前後に活発化した島原半島や橘湾での地震活動は低調である。雲仙岳東方の有明海(島原湾東部)で1995年2月より活発化した群発地震は、1995年9月以降地震の発生が散発的となり、本報告機関にはほぼ終息したとみられる(第2図)。この震源分布は、第3図に示すように、東西方向の線状配列をなし、西に向かって震源の浅くなる傾向を示している。しかし、この分布にはマグニチュード1程度の地震が多く含まれており、震源決定精度についての注意が必要である。この問題については現在データの再吟味を行っている。

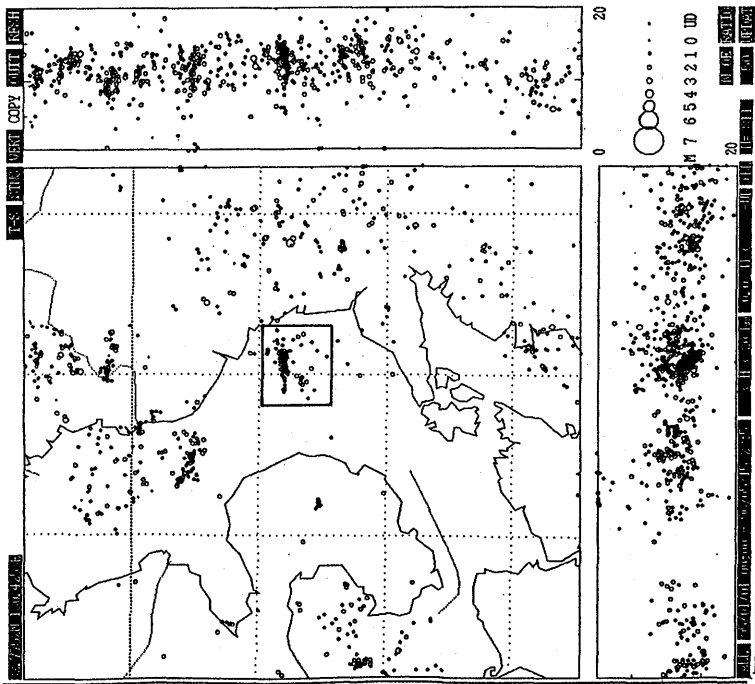
雲仙岳の火山活動は、1995年2月の溶岩噴出の停止以降、本報告機関においても特に目立った変化は現れていない。第4図に雲仙岳周辺の4カ所の傾斜観測点における傾斜の日平均値の変化を、第5図に、普賢岳北麓における地磁気変化を示す。

第6図に、GPS測量による溶岩ドームの変形を示す。1996年5月10日までの1年間換算で、最大水平106cm、沈降148cm(DE点)の変動が見られる。各測定点の動きから、溶岩ドームは沈降とともに周囲へ広がる変形をしていることがわかる。第7図に溶岩ドーム頂部での噴気温度変化を示す。各測定点とも噴気温度の低下傾向が続いている。

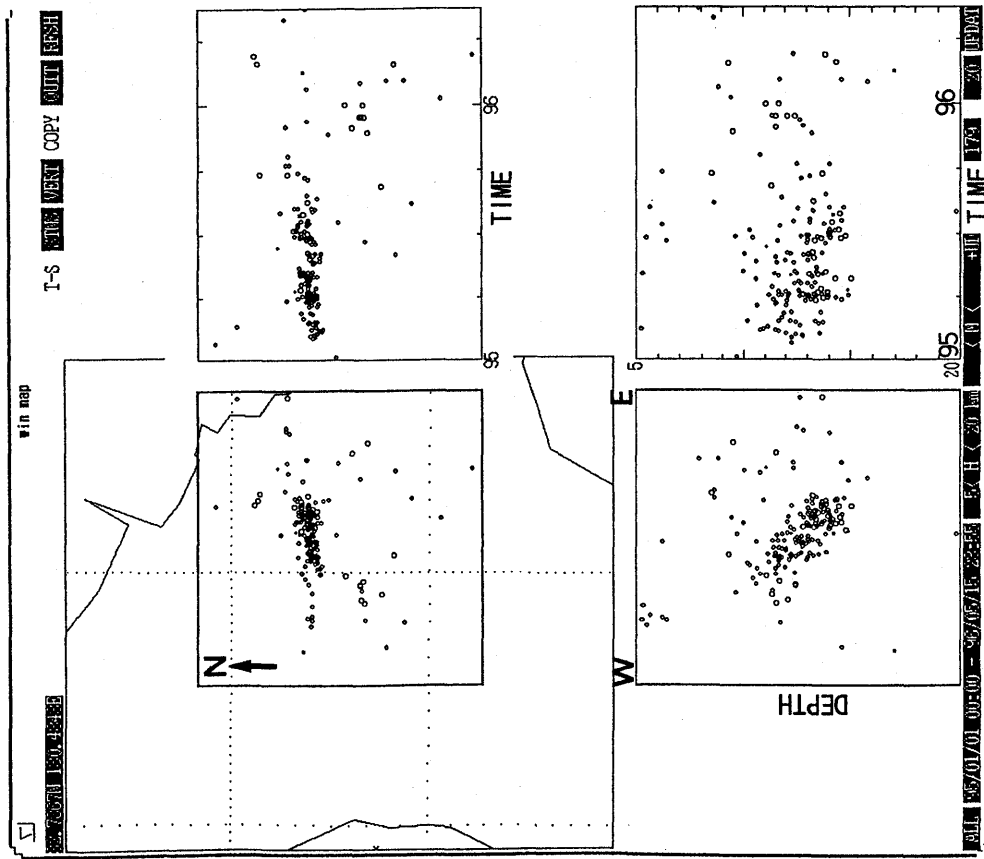


第1図 九州中西部の震源分布(1996年2月1日～5月15日)と活断層分布  
Fig. 1 Hypocentral distribution in mid-western Kyushu (Feb. 1—May 15, 1996). Active faults are also delineated.

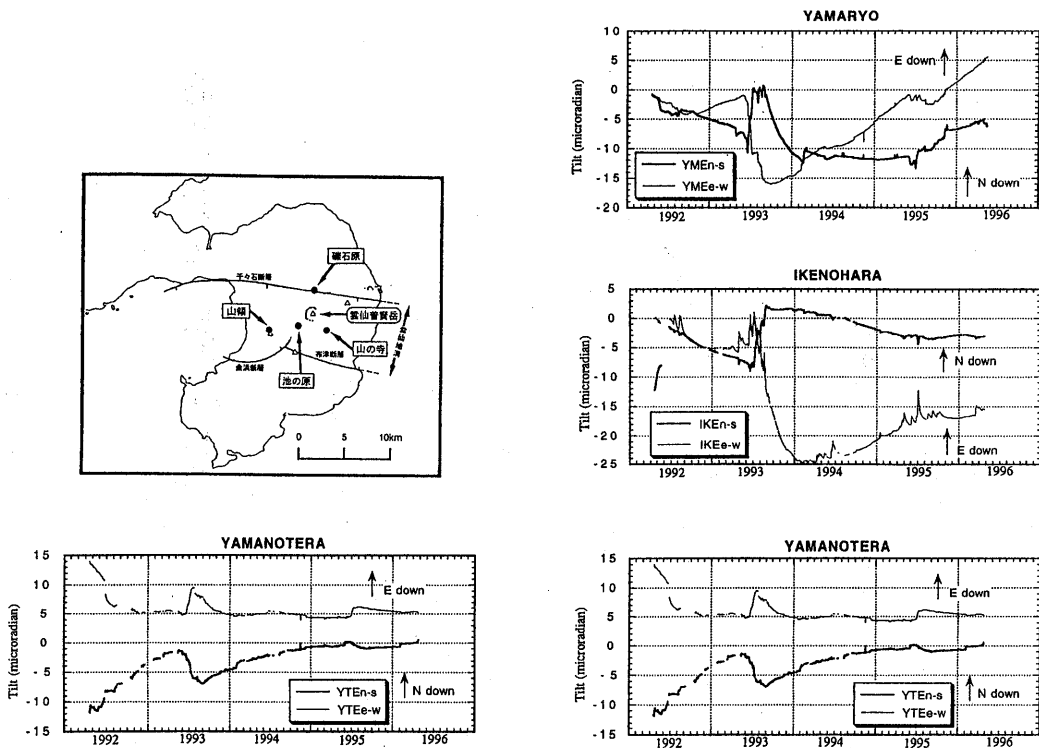
\* Received 25 July, 1996



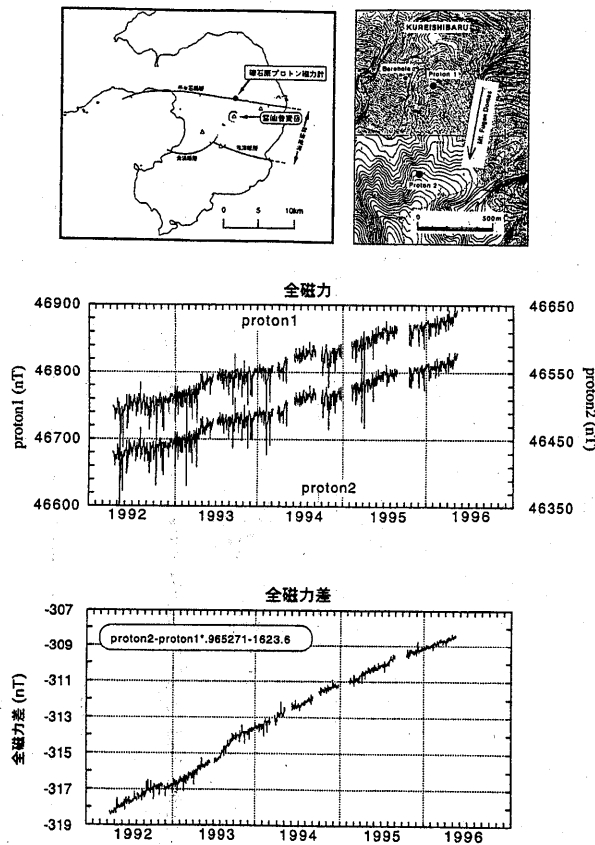
第 2 図 有明海の群発地震 (上図枠内) の M-T 図  
 Fig. 2 M-T diagram of the earthquake swarm in Ariake Sea  
 (rectangle region in the top figure).



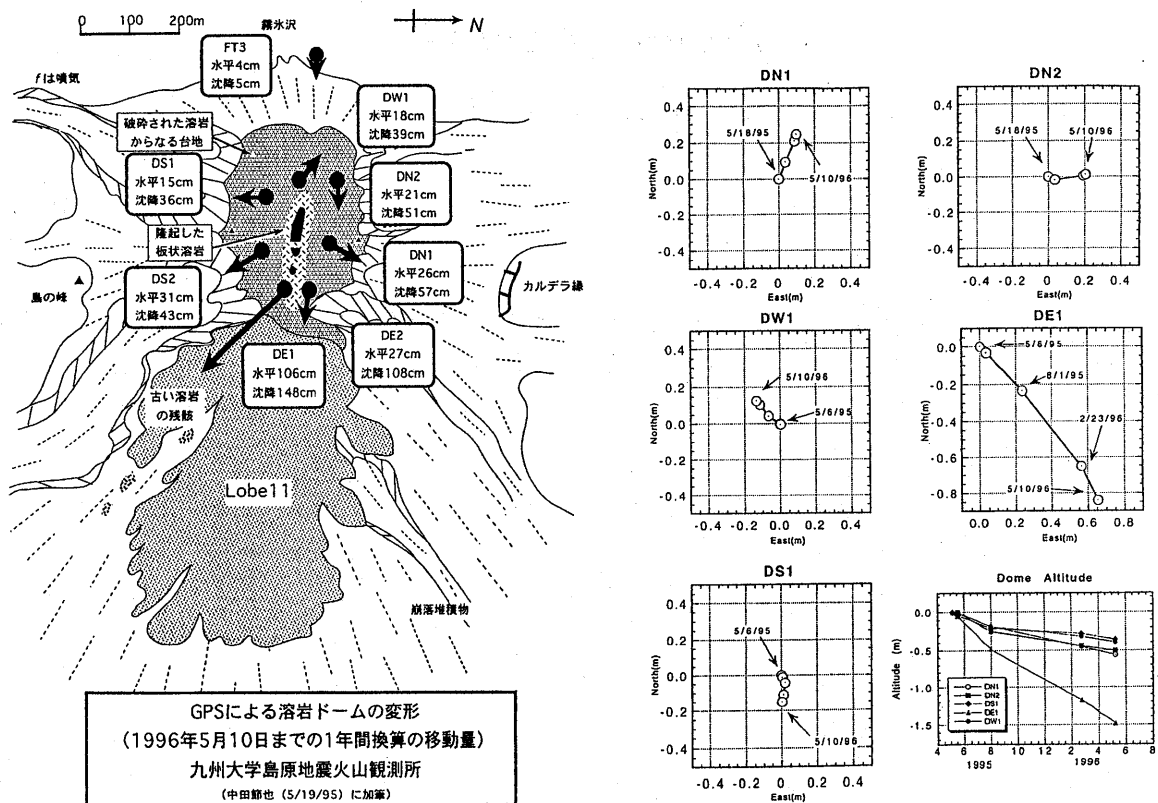
第 3 図 有明海の群発地震の震源分布拡大図と時空間分布  
 Fig. 3 Close-up of the hypocentral distribution of the earthquake swarm  
 in Ariake Sea and the space-time diagrams.



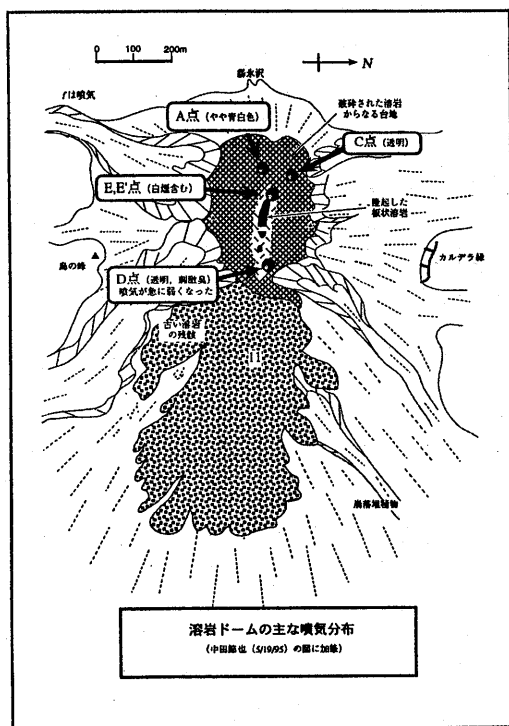
第 4 図 雲仙普賢岳周辺の傾斜計配置図と雲仙普賢岳周辺における傾斜変化 (日平均)  
 Fig. 4 Distribution of tiltmeters and their daily mean of the crustal tilt date around Mt. Unzen.



第 5 図 雲仙普賢岳北麓における全磁力観測点およびその変化  
 Fig. 5 Distribution of observation points and variation of geomagnetic total force intensity and their difference.



第 6 図 GPS による溶岩ドームの変動  
Fig. 6 Deformation of the lava dome observed using GPS.



第 7 図 溶岩ドーム頂部での噴気温度  
Fig. 7 Temperatures of fumaroles at the top of the dome.